

2 ネパールで実施された JICA 農林プロジェクトの評価

名古屋大学大学院国際開発研究科が JICA より受託された業務ですが、農業開発関連のプロジェクトを対象とすることもあり、当センターが大学院生命農学研究科とのコーディネート役を引き受けました。当センターからは門平が、また作物科学と森林保全関連の2つの分野から各3名、計6名の名古屋大学の教官が現地調査に参加することになりました。ネパールで実施された JICA の技術協力の中で、農林分野における協力活動が貧困・ジェンダーの視点でどのような影響や効果を発揮したかについての評価をします。第一陣が9月11日より19日まで現地調査を行いました。調査は12月末まで続きます。



センターの今年10月～来年3月の行事予定

- 松本哲男教授着任 (10月)
- センター創設記念式 (12月6日)
- ネパール現地調査 (11-12月)
- ブラジルでのコンソーシアムの打合せ (12-1月)
- パラグアイへの短期専門家派遣 (3月)

センター創設記念式

日時：平成11年12月6日(月)
場所：名古屋大学シンポジオン・ホール
創設記念式：午後2時30分から
創設記念講演会：午後3時30分から



松本哲男 (まつもと てつお)

プロジェクト開発研究・教授

(10月16日着任予定)

昭和22年3月愛知県生まれ。名古屋大学大学院農学研究科博士課程満了後、学術振興会奨励研究員、国際半乾燥熱帯作物研究所 (ICRISAT) 研究員 (窒素固定能簡易測定法などを発案)、ミズーリ大学PDを経て、ダウ・ケミカル日本(株)に入社。農業研究開発担当主任研究員を皮切りに、研究開発マネージャー等として活躍。ダウ・アグロサイエンス(株)に移籍後、本年秋まで、同社のアジア・太平洋研究開発部長等として、水稲用除草剤シロハホップピチルや新シロアリ防除用ベイト剤(汚染最小限化法)の農業分野の研究開発の仕事に取り組んできた。

農学分野の国際教育協力 人材データベースづくりのための アンケート調査開始

8月上旬よりアンケート調査を開始しました。全国の農学系大学・学部が持つ協力実績や研究蓄積、ならびに農学分野の国際教育協力を意欲的に取り組んでいただける方々の研究・人材データベースの構築が目的です。国立大学35大学38学部、1大学校(農林水産省)、公立5大学5短大、私立13大学15学部7短大あてに約6500通のアンケート用紙を発送しましたが、9月末現在1210通あまり回収できました。皆様のご協力に感謝いたします。また次回のニューズレターにてアンケート調査結果のまとめを掲載します。

講師とテーマ

久馬 一剛 (滋賀県立大学環境科学部教授)

「アジアの農業と
環境を考える」